



## 日本臨床皮膚科医会 北海道ブロック第71回研修講演会

学術担当・小泉皮膚科クリニック こいずみ ひろこ 小泉 洋子

日本臨床皮膚科医会北海道ブロックは令和4年、第71回研修講演会を開催しました。8月20日かでの2.7に於いて道内の会員のウェブでの参加と、会場に参加された会員とのハイブリッドで行われました。皮膚科新専門医単位が付与される会でありました。市立札幌病院皮膚科医長、日本臨床皮膚科医会北海道ブロック副ブロック長であります藤田靖幸先生が「新しい皮膚科治療～低分子・生物製剤そして再生医療～」と題しご講演されました。先生は前職は北海道大学講師をなさり、日本皮膚科学会最高賞であります皆見省吾記念賞を2011年に受賞されています。そして2023年6月17-18日ロイトン札幌にて開催されます、第39回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会会頭であります。

川嶋利瑞ブロック長からのご挨拶に引き続き川嶋先生座長の元、ご講演が始まりました。新しい皮膚科治療として、JAK阻害剤、生物製剤、再生医療を取り上げ説明されました。要約します。JAK阻害剤はJAK-STATを介した細胞の活性化、細胞内シグナル伝達の第一歩を阻害します。2020年、コレクテム、オルミエント、リンヴォック等が使われるようになりました。内服薬は半減期が数時間内で、すぐ効いてすぐ抜けていきます。低分子なので外用薬ができる。広範な細胞に作用し、免疫反応を抑制する特徴があります。内服薬は1日1,500円くらいです。薬品によりますが12歳、15歳と小児にも使用可能です。藤田先生の症例では内服初日からかゆみが減って眠れるようになったという方もいたそうです。内服薬の安全性については肝障害、顆粒球減少、中性脂肪上昇例の経験を示されました。オルミエントは乾癬の他、円形脱毛症に適応あり、従来治療抵抗性の患者に利するところが大きいです。

乾癬の生物製剤は多数使用されるようになっていきます。昔のテレビゲームが、市場が広がりすぎて崩壊してしまった例を挙げ危惧するところでもあります。アトピー性皮膚炎に対する生物製剤について話されました。痒みを感じず神経への伝達物質はヒスタミンの他IL-4、IL-13、IL-31など非ヒスタミンが

あります。全国で3万人、北海道で2,000人に使われているデュピルマブはIL-4に働きかゆみを改善させやすいのです。安全性は2割に結膜炎を特に重症例に起こしやすいです。結節性痒疹、小児アトピー性皮膚炎、難治性蕁麻疹、水疱性類天疱瘡で適応拡大申請中ないし治験中です。13歳以上に使えるミチーガやスベピゴなどの新薬もあります。

再生医療ではご自身が深く関わった自家培養表皮を用いた治療を熱く話されました。自家培養表皮ジェイスと言います。患者皮膚片2×2cmをJ-TECに送り、培養シート8×10cm200枚を作ってもらいます。製作費は438万円、シートは15万円します(令和4年9月時点では446万円、15万4,000円)。医師は、シートを患者の皮膚に置き、創傷被覆材を乗せません。3日位で生着するのです。2008年重症熱傷、2016年先天性巨大色素性母斑に保険適用されています。先天性表水疱症は遺伝子変異による疾患であるからこのシートを用いてもまた水疱、びらんを形成すると考えられ保険適用にはなっていませんでした。北海道大学では先天性表水疱症の研究治療がなされており、大学症例ではこの培養表皮により1か月でほぼ上皮化その後10年維持できているものがあつたのです。この培養表皮シートの遺伝子変異に一部修正が起きていました。患者では水疱のないところの遺伝子変異が正常化していた。後天的に一部で自然修復がされる現象、復帰変異モザイクが起きうるので。復帰変異モザイクで先天性表水疱症が治せないか、藤田先生は医師主導治験を北海道大学で最初に立ち上げ、とうとう2019年に承認を受け、先天性表皮水疱症に保険適用が拡大されました。43例に使用しています。画期的な治療です。J-TECではメラノサイトを含むシートを用いた尋常性白斑への研究がされています。様々な機序の薬が新規に上梓され乾癬やアトピー性皮膚炎等の治療に貢献しています。しかし高額な治療になりやすく高額療養費制度を利用してもなお受けられない患者が多いのです。国の財源の発動を。治療者は新規治療の知識をアップデートし続けることが重要と訴えかけました。

疾患の理解、治療法の勉強だけでなく、患者と向き合う姿勢の大切さを認識した大変心に残る研修会でありました。